



2019年度文化庁地域文化財総合活用推進事業補助金
東郷池周辺の文化遺産を活かした地域活性化事業

2019 羽衣石城シンポジウム

お城って
おもしろい

魅力に迫る!

羽衣石城

十萬寺所在城「たいこうがなる」?



2019

11.23 (土・祝) (開場11:30) 12:30-15:20

ハワイアロハホール

目次

2019羽衣石城シンポジウム日程	1
お城のスペシャリスト・ゲスト紹介	2
鳥取県指定無形民俗文化財 東郷浪人踊	2
基調講演	3
羽衣石城の攻防！－城跡から探る湯梨浜の戦国－	
滋賀県立大学 中井 均	
羽衣石城縄張り図、お城の用語・豆知識	6
赤色立体地図	7
番城・羽衣石城・十万寺所在城	
羽衣石城・南条氏の歴史	9
羽衣石城・南条氏関係年表	10
湯梨浜町内の中世城館分布図	11
天正8～10年の東伯耆における織田・毛利の動き	11
羽衣石めぐり	13

2019羽衣石城シンポジウム

「羽衣石城 魅力に迫る！」

日 程

12:30～12:35 オープニング
あいさつ 湯梨浜町長 宮脇正道

第1部

12:35～13:00 基調講演
羽衣石城の攻防！－城跡から探る湯梨浜の戦国－
講師 中井 均 さん（滋賀県立大学教授）

13:00～13:20 休憩
鳥取県指定無形民俗文化財 **東郷浪人踊**

第2部

13:20～15:20
スペシャルゲストたちによる「お城の魅力・見方・楽しみ方」
羽衣石城・十万寺所在城の活用と今後の可能性を探る
ゲスト：中井 均 さん、加藤理文さん、萩原さちこさん
春風亭昇太さん
コーディネーター
中森祥さん（鳥取県地域づくり推進部文化財課課長補佐）



お城のスペシャリスト・ゲスト紹介



なかい ひとし
中井 均 滋賀県立大学人間文化学部教授・城郭研究家

考古学者・城郭研究家・滋賀県立大学人間文化学部教授。滋賀県文化財保護協会を経て米原町・米原市教育委員会に25年間勤め、発掘調査などに携わる。専門は日本考古学で、特に中・近世城郭の研究、近世大名墓の研究。日本各地の中・近世城郭の発掘調査・整備の委員を務める。著書『近江の城一城が語る湖国の戦国史』『中世城館の考古学』などがある。



かとう まさふみ
加藤 理文 公益財団法人日本城郭協会理事・城郭研究家

城郭研究家・静岡県袋井市立浅羽中学校教諭。公立高校教諭、財団法人静岡県埋蔵文化財調査研究所、静岡県教育委員会文化課などに勤務。城郭研究家として全国の城を巡り、特に織豊系城郭を専門に研究されている。日本城郭協会理事・学術委員会副委員長、織豊期城郭研究会事務局長、NPO法人城郭遺産による街づくり協議会監事を歴任。著書に『織田信長の城』『織豊権力と城郭』『日本から城が消える』などがある。



はぎわら さちこ
萩原 さちこ 公益財団法人日本城郭協会理事・城郭ライター

城郭ライター・編集者。小学2年生で城に魅せられて以来、日本人の知恵、文化、伝統、美意識、歴史のすべてが詰まった日本の宝の虜になり、城めぐりがライフワークに。印刷会社、出版社、制作会社、広告代理店等の勤務を経て2012年独立。著書に『わくわく城めぐり』『お城へ行こう!』『図説・戦う城の科学』などがある。



しゅんぷうていしゅう た
春風亭 昇太 落語家・城郭愛好家

落語家。落語芸術協会会長。芸能界きってのお城マニアで、全国各地で行われる城イベントに引っ張りだこ。2016年5月から人気長寿番組『笑点』の司会を務める。中学生のときに出会った庵原山城（静岡県）で本格的に城に目覚め、休みのたびに友人と地元の山城を巡り歩いた。城に関する著書に『城あるきのススメ』がある。

鳥取県指定無形民俗文化財 東郷浪人踊

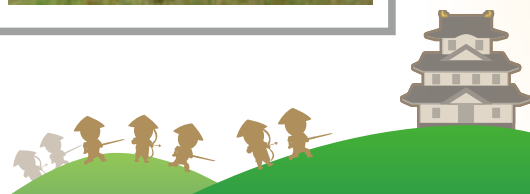
東郷浪人踊は、羽衣石・南条氏の羽衣石城落城にまつわる鎮魂の踊りです。

東郷浪人踊の起源は、天正から慶長年間、羽衣石城の落城までさかのぼります。織田氏の軍勢について城主・南条氏が吉川元春のひきいる毛利勢に攻められ、両軍とも多くの死者を出し、山河を血潮で染めつくす激戦となりました。あえなく羽衣石城は落城、生き残った者は浪人となって四散してしまいました。

その後、落城した7月20日になると浪人たちが夜陰にまぎれて何処からともなく東郷池の畔に集まり、ありし日の羽衣石城を偲び、城主や戦で亡くなった将兵を慕いながら静かに踊り、夜が明ける頃、また、何処ともなく去って行ったと云われています。

踊りは念仏踊りの形式を伝え、音頭に合わせて手をたたくところも音をたてないように合唱するなど静かに踊ることを特徴としています。

東郷浪人踊は、羽衣石城の悲しい歴史を始め、様々な思いを抱えた先人たちが400年以上大切に守り伝承してきた踊りです。東郷浪人踊保存会によって踊り継がれています。昭和37年に鳥取県指定無形民俗文化財に指定されました。



羽衣石城の攻防！

—城跡から探る湯梨浜の戦国—

滋賀県立大学 中井 均

◆ はじめに

- ・それは1通のメールからはじまった ⇒ 鳥取県教育委員会（当時）中森さんからの「たいこうなる」の城郭遺構が興味深い【『鳥取県中世城館分布調査報告書 第2集（伯耆編）』2004を見て驚く！「織豊系の陣城」】

◆ 東西の膚を合せ一戦に及ぶべき行にて

- ・天正9年（1581）10月25日鳥取落城 ⇒ 伯耆における毛利軍（吉川元春）と織田軍（羽柴秀吉）との戦い【羽衣石城の南条元統の動向】
- ・「十月廿六日、伯耆国に南条勘兵衛・小鴨左衛門尉兄弟兩人、御身方として居城候処、吉川罷出で、南条表取巻きの注進候。眼前に攻殺させ候ては、都鄙の口難無念の由候て、羽柴筑前守後巻として罷立ち、東西の膚を合せ一戦に及ぶべき行にて、」（『信長公記』天正9年10月26日条）
- ・南条勘兵衛（元統）の居城 ⇒ 羽衣石城【「羽衣石と云ふ城、南条勘兵衛御身方として相抱へ候」（『信長公記』）】
小鴨左衛門尉（元清）の居城 ⇒ 岩倉城（倉吉市岩倉）【「おなじく舎兄小鴨左衛門尉岩倉と云ふ所に居城」『信長公記』】

◆ 吉川元春、羽柴秀吉の陣

- ・吉川元春の陣 ⇒ 馬の山【「吉川罷出で、右の両城へ着向ひ、卅町ばかり隔て馬の山と云ふ所に張陣なり」『信長公記』】
馬の山（馬野山）は吉川元春の伯耆進出の拠点 ⇒ 天正8年（1580）には吉田源四郎に馬野山在番を命じている
天正9年（1581）には檜崎元兼が馬山の御陣は堅固であると述べている
- ・馬の山 ⇒ 湯梨浜町大字上橋津に所在する標高106.9mの山頂部に選地
その構造 ⇒ 『鳥取県中世城館分布調査報告書 第2集（伯耆編）』によれば土塁が残存しているが、現在見られる土塁状の土盛りは公園造成や駐車場造営のときに盛られたものであり、陣に関わるものではない。一方、最高所は展望台造成によって破壊されており、その構造は不明である
- ・羽柴秀吉の陣 ⇒ 「羽柴筑前守秀吉、羽衣石近所に七ヶ日在陣候て」【『信長公記』】
「秀吉、さらば此勢ひに吉川を討取るべしとて、同二十七日、羽衣石山續の高山へ打上げ、馬野山を山足に直下して屯を張り給ふ」【『陰徳太平記』】
※具体的な山の名前を記した史料はない





◆ 秀吉の陣はどこにあったのか

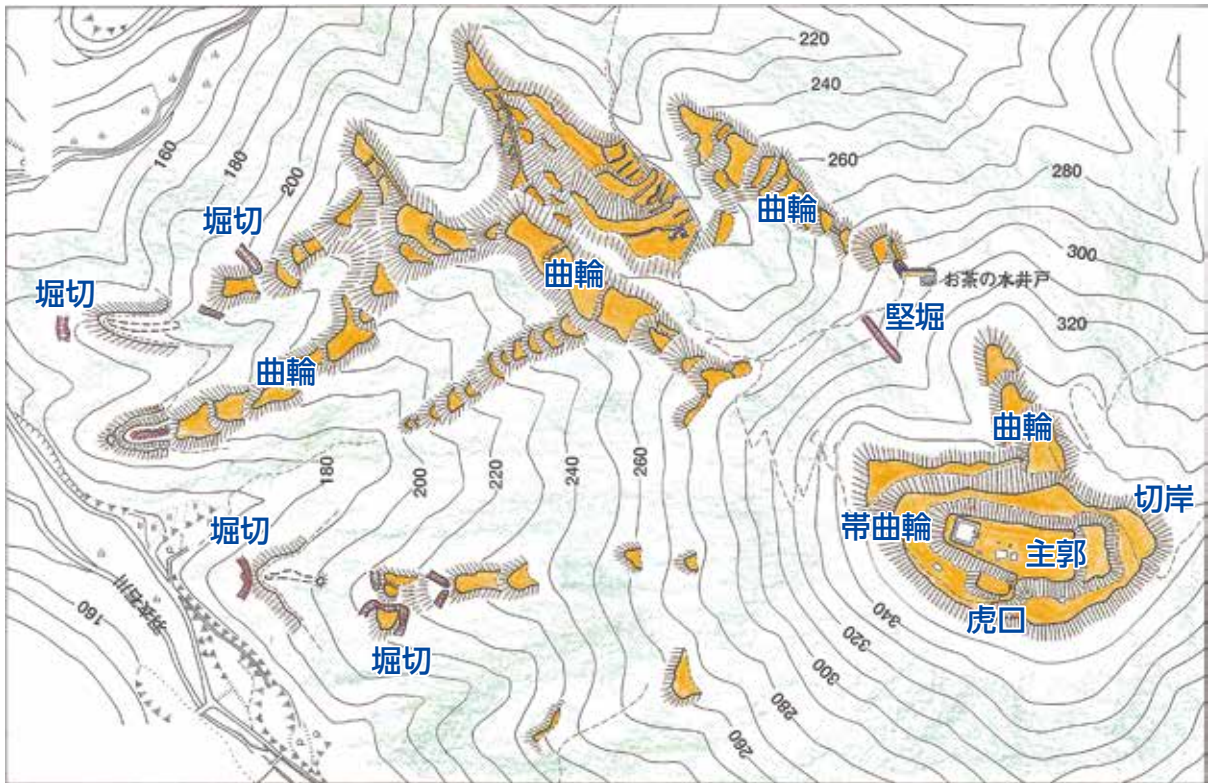
- ・これまでの説 ⇒ 御冠山【湯梨浜町大字宮内に所在する標高186.3mの山】
※一応馬の山とは尾根続き
御冠山在陣は史料的には確認できない ⇒ 江戸時代以降の地誌類に登場【「吉川本陣廿町計相関侯間、押詰、南条城江取続、令居城」(「羽柴秀吉書状」)に記された20町の距離からの想定か】
- ・御冠山の構造 ⇒ 山頂部に人工的な遺構は一切認められない(自然丘陵)【この段階の秀吉の陣であれば土塁や堀を構えるはず：鳥取城攻めの太閤ヶ平、三木城攻めの平井山陣など】
- ・十万寺の「たいこうがなる」⇒ 羽柴秀吉在陣を物語る陣城遺構の存在【曲輪を圍繞する土塁を設ける構造はこの地域の戦国期城郭には認められない】
十万寺山に関しては天正8年(1580)11月8日に「山田重直が十万寺山に軍勢を派遣して、南条氏の重臣鳥羽氏の被官1人を討ち取る」という史料があり、すでに十万寺山に何らかの施設の存在したことが窺える
- ・十万寺の城郭構造 ⇒ 尾根を切断する巨大な堀切、主郭を圍繞する土塁、北峰・南峰の周囲に巡らされた帯曲輪としての遮断線、階段状に削平された駐屯地【織豊系の陣城としてまずまちがない】
※南峰の階段状の曲輪は寺院(十万寺、充滿寺)を利用したものか
- ・秀吉の構想 ⇒ 羽衣石城に近すぎる【羽衣石城では防御できない】
羽衣石城は曲輪を階段状に配置するだけの単純な構造であり、ここに入ることはリスクが高い ⇒ 羽衣石城を見下ろす十万寺山に自ら築城した陣城に布陣した
- ・もうひとつの防御施設 ⇒ 赤色立体図に現れた見事な城郭【番城】
北側に構えられた二重の横堀 ⇒ 明らかに北側(吉川側)を意識した築城【十万寺の陣城構築と同時に秀吉軍によって敵正面に築かれたものか】
※元亀3年(1572)に近江小谷城の本丸に入った越前の朝倉義景は本丸の為体(ていたらく)を見るにおよんで大嶽に移った

◆ おわりに

- ・城郭構造からみた秀吉の陣 ⇒ 御冠山には城郭遺構は存在せず陣とは認められない【江戸時代以降の創作】
十万寺の城郭遺構 ⇒ 見事な土塁囲いの曲輪と兵の駐屯地と見られる削平群【明らかな陣城】
在地土豪の城とは考えられない ⇒ 構造的な面に加えて地元で城の伝承が伝わらない【突



羽衣石城縄張り図



山頂部の城郭遺構

お城の用語 豆知識

曲輪 (くるわ)

お城の内外を土塁、石垣、堀などで区画した区域の名称

主郭 (しゅかく)

お城の中核となる曲輪。本丸とも呼ぶ。

腰曲輪 (こしくるわ)

斜面の中腹に設けた曲輪

帯曲輪 (おびくるわ)

細長く帯状に城を囲む曲輪

虎口 (こぐち)

城の曲輪への出入り口。狭い道・狭い口という意味もあり「小口」とも書く。

堅堀 (たてぼり)

山城で、自然地形の斜面に上下方向に設けた堀。敵の横方向の移動を防ぐ。

堀切 (ほりきり)

山城で、敵の侵入を防ぐために山の尾根を切断して堀としたもの。空堀とも呼ぶ。

土塁 (どるい)

城の外周や曲輪の周囲に土を盛って固めた施設。敵の攻撃、侵入を防ぐ。

切岸 (きりぎし)

山城で、切土により山復を削り落とし崖上にしたもの

土橋 (どばし)

堀を横断する通路として設けられる土の堤

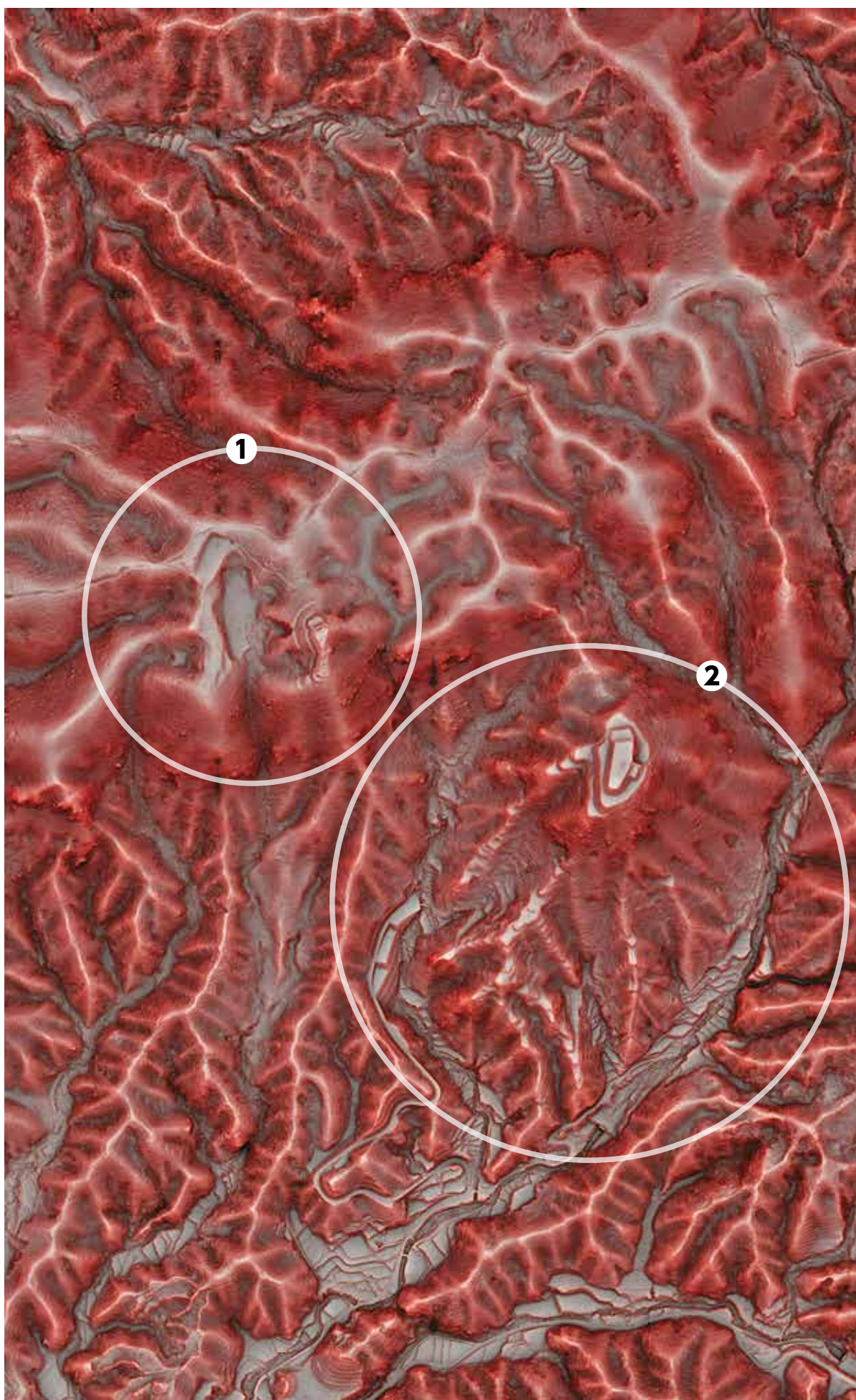
陣城 (じんじろ)

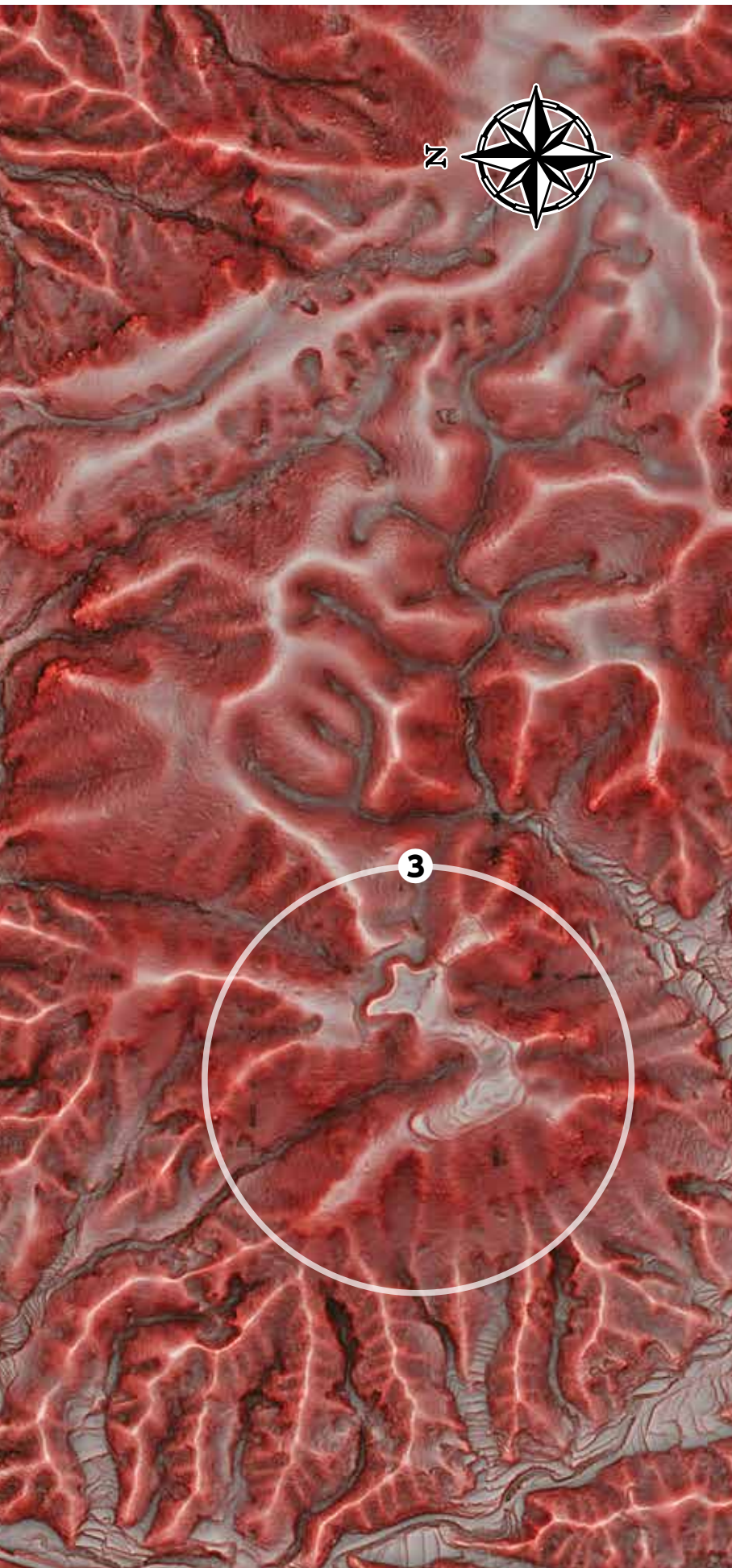
敵国を攻める際、攻撃に都合の良い場所に突貫工事で築城した城



赤色立体地图

—Red Relief Image Map—





① 番城

羽衣石城の北北東へ約500m離れた、羽衣石城よりも高い標高413mの山頂に築かれている。羽衣石城の物見をする砦と見られる。曲輪・堀切・帯曲輪の遺構が認められている。

② 羽衣石城

標高372mの急峻な山の頂に、本丸・曲輪・虎口などの遺構が残る。本丸跡からは瓦の出土はなく、城は板葺であったとみられる。本丸跡は東西に66m、南北20m、北西の尾根上を中心に大小多数の曲輪跡が存在し、中世城郭としては相当な規模を誇る。

北西の曲輪には自然の巨石を巧みに利用した「天然の塁壁」がある。また、南条氏の居館であった可能性がある住居跡も存在する。城跡からは主に16世紀代の陶磁器・土器が多数出土している。

③ 十万寺所在城

十万寺所在城は、羽衣石城の南方に位置する423mの山頂にあり、東西70m、南北50mの主郭を中心に、土塁、堀切、空堀及び切崖が広範囲に分布している。土塁で囲境された平らな主郭を中心に各峰の防備に設けた堀切と空堀は中世城郭の特徴を持つ。

S= 1: 2500

0 250 500 (m)



羽衣石城・南条氏の歴史

羽衣石城は、東伯耆の国人領主・南条氏の居城として貞治5年（1366年）から慶長5年（1600年）まで約234年間使用された城である。

城主の南条氏をはじめ羽衣石に関する記録は「羽衣石南条記」「伯耆民談記」などの少数のものしか伝えられていない。また、これらの諸本の成立年代は南条氏が滅んだ後、百数十年たった江戸時代の中頃のものであり、どこまで事実を伝えているかは疑問であるが南条氏を知る一つの手掛かりである。

さて、これらの諸本によると南条氏の始祖は南条伯耆守貞宗とし、この貞宗は近江源氏佐々木氏の庶流塩治高貞の次男で、高貞が滅亡した時とき越後前国南条郡に逃れた。貞宗は成長後南北朝期に將軍・足利尊氏、二代將軍・足利義詮氏の父子に仕えて軍功を挙げて義詮より伯耆守に任ぜられ、貞治5年（1366年）に羽衣石城を築いたと云われている。

以後、南条氏は羽衣石城を拠点に、伯耆守護山名氏に従った。この南条氏の活動が盛んになるのは、応仁の乱以後で、明徳の乱（1391年）、応仁の乱（1467年～1477年）のために伯耆国守護山名氏の権力が衰退するに乗じて、南条氏は在地支配の拡大を目指して独立領主化を推し進めた。第8代南条宗勝の時には守護山名澄之の権力をうわまわる武力を保持するに至った。

大永4年（1524年）隣国出雲の月山富田城主である尼子経久は伯耆国へ本格的な進行を行い西伯耆の尾高城、天満城、不動ヶ城、淀江城並びに東伯耆の八橋城、堤城、岩倉城、河口城、打吹城の諸城を次々に攻略し、同年5月中頃までにはこれらの諸城は降伏してしまった。南条氏羽衣石城もこのときに落城し、城主の南条宗勝は家臣とともに山名氏を頼って因幡の地に逃れた。これを「大永の五月崩れ」といい、この乱後、伯耆国は尼子氏の支配することとなり、羽衣石城には尼子経久の子国久が入城し、以後、しばらく尼子氏の支城となり伯耆攻めの拠点となった。しかし、安芸の毛利氏の台頭とともに尼子氏の勢力は衰退し支配権を失った。南条宗勝は永禄5年（1562年）に毛利氏の援助により羽衣石城を奪還している。永禄9年（1566年）に戦国の雄・尼子氏が毛利氏によって滅亡すると、伯耆は毛利領となる。漸くして南条宗勝は、月山富田城に入った吉川元春（毛利元就の二男）の支援を得て、羽衣石城に返り咲き東伯耆三郡を支配した。

山陰地方で毛利氏の勢力が回復する中、天正8年冬に織田信長の山陰出陣計画が持ち上がり、配下である羽柴秀吉に中国経略が命じられる。織田勢の山陰進行が本格化すると、天正7年（1579年）に南条氏9代・南条元統は、毛利氏を離反して織田信長の毛利攻めの総大将・羽柴秀吉に味方した。そのため吉川元春率いる毛利軍は三方に分かれて羽衣石城を攻撃した。このため南条軍は総崩れとなり、南条元統は自刃しようとしたが家臣に諫められ、三徳の山を越えて因幡に落ち延びた。翌天正8年（1580年）因幡に進出していた羽柴秀吉の加勢を得て南条元統は吉川軍と戦い、羽衣石城を奪回したが、その後も吉川元春との攻防戦（長瀬川・長江等の戦い）は続いた。天正10年（1582年）羽柴秀吉の撤兵とともに羽衣石城は、吉川方山田重直に占拠され、城主元統は播州へ逃亡した。備中高松城で秀吉と毛利が和睦を結んだことにより、天正13年（1585年）秀吉と毛利氏との間で領土の確定が行われ、伯耆東三郡は八橋城を残して秀吉の支配するところとなり、再び南条氏に与えられ羽衣石城主に返り咲いた。

天正19年（1591年）南条9代元統は激動の生涯を終え、子の南条元忠が家督を継いだ。しかし、慶長5年（1600年）におこった関ヶ原の戦いで南条元忠は石田三成の西軍に属したため改易となり羽衣石城は廃城となった。

生き延びた南条元忠は慶長19年（1614年）大阪の陣に際し豊臣方について奮戦したが、徳川家康方に内通したとの疑いで切腹をさせられ、南条氏10代250年の歴史は閉じた。



羽衣石城・南条氏関係年表

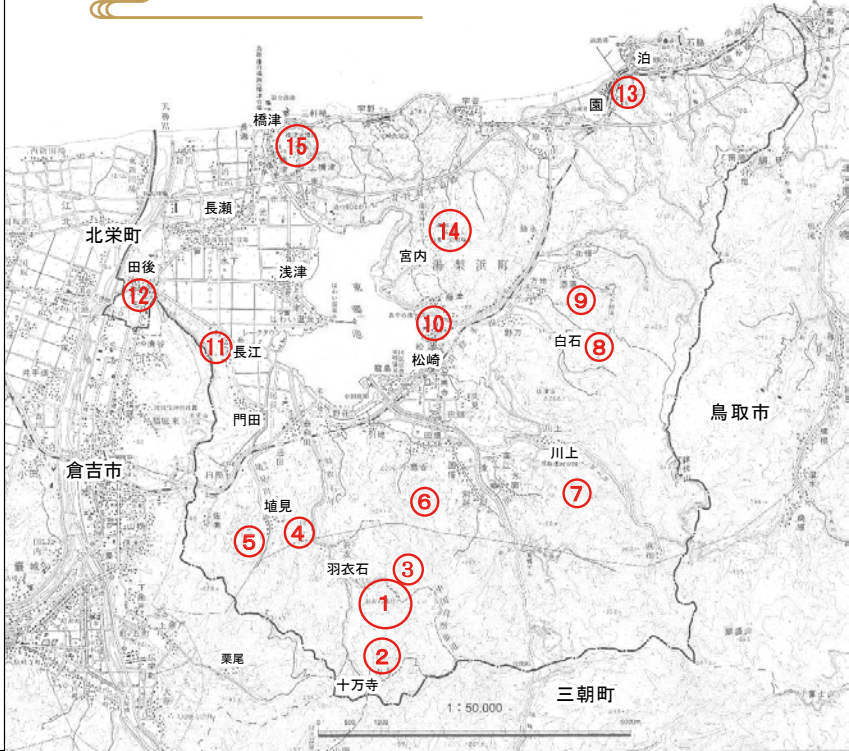
西暦 (年号)	事 項
1341 (暦応4)	塩冶高貞と妻子没。次男の貞宗は出雲を経て越前国南条郡に逃れる。
1366 (貞治5)	南条貞宗が羽衣石城を築城する。
1371 (応安4)	南条貞宗、大伝寺を再興する。
1406 (応永13)	十万寺の僧密乗坊慶海、木造三重小塔を奉納する。
1408 (応永15)	南条景宗、景宗寺を創建する。
1524 (大永4)	尼子経久の侵攻により落城 (大永の五月崩れ)。城主・南条宗勝に代わり、尼子国久が城主となる。
1540 (天文9)	南条宗勝が尼子方で安芸吉田郡山城攻めに参加し大敗。大内氏に投降。
1542 (天文11)	宗勝が大内方で出雲月山富田城攻めに参加し大敗。山名祐豊を頼り因幡に逃れる。その後、美作大原へ逃れる。
1562 (永禄5)	毛利氏の台頭により尼子氏が衰退し、南条宗勝が羽衣石城に復帰。
1564 (永禄7)	南条宗勝が鹿野城攻めを成功させ、伯耆での勢力を広げる。
1575 (天正3)	南条宗勝没。南条元統が家督を継ぐ。
1577 (天正5)	南条元統、大日寺 (倉吉市) を修造する。
1579 (天正7)	南条元統、中津・小鹿の山論を裁許する。 南条元統、堤城の山田重直を攻撃する。 元統が毛利から離反し織田方へ寝返る。吉川元春らの侵攻を受け落城するも、豊臣秀吉の助力により回復。
1580 (天正8)	南条備前守、三仏寺文殊堂を修営する。 南条元統、長和田・長瀬川で吉川元春と戦う。南条元秋戦死する。
1581 (天正9)	吉川元春、羽衣石城を攻撃する。南条勢、城を防衛する。 羽柴秀吉と吉川元春と対陣する。
1582 (天正10)	羽衣石城、吉川元春配下の山田重直に占拠され、南条元統は城を追われ播州に逃れる。
1583 (天正11)	吉川元春・元長父子、東郷八幡宮に禁制を掲げる。
1584 (天正12)	南条元統、羽衣石城を回復する。 豊臣秀吉、相国寺光源院領大谷・国分寺・四王寺の還付を南条直秀に命じる。
1585 (天正13)	豊臣・毛利間で領土の確定が行われ、南条元統が羽衣石城に復帰する。 八橋城を除く東三郡が南条領と確定する。
1591 (天正19)	南条元統没。元忠が家督を継ぐ。
1592 (天正20) (文禄1)	南条元忠・元清、船上山三所権現を修造する。 小鴨元清、南条軍1500人を率いて朝鮮に渡海する。
1600 (慶長5)	関ヶ原の戦いで南条氏、西軍に味方して敗北。改易となり羽衣石城廃城。
1614 (慶長19)	南条元忠、大坂冬の陣で大坂城内にて没。



<城郭の概略>

- ①羽衣石城 南条氏の居城。標高 372mの山頂部に主郭がある。その周りには帯曲輪、さらに下方にも多数の腰曲輪が存在する。
- ②十万寺所在城 羽衣石城跡の南方に位置する423mの山頂部にあり、主郭には土塁、堀切、空堀及び切崖が広範囲に分布している。
- ③番城 羽衣石城の北方に位置する 413mの山頂部に位置し、羽衣石城の出城で堀切と横堀を主体とする縄張りである。
- ④埴見小守谷所在城 標高 115mの丘陵上にあり、南北方向に複数の曲輪が存在する。
- ⑤高野宮城 南条氏の重臣山田超中の居城。標高191mの尾根上に位置する。北東の隅に守護神を祀ったとされる巨岩が鎮座する。
- ⑥上山城 標高 261mの丘陵尾根上に位置し、曲輪と堀切が見られる。
- ⑦川上所在城 標高 260.4mの丘陵尾根上に位置し、主郭の下端に帯曲輪が周る。土塁、堀切、土橋が存在する。
- ⑧白石城 標高246mの丘陵山頂部に位置し、東西方向に複数の曲輪が存在する。尾根を部横断する堀切も存在する。
- ⑨漆原向山所在城 低丘陵尾根上に曲輪群が造られ、約 100mの細長い帯曲輪も存在する。
- ⑩松崎城 東郷池を足元に望む丘陵頂部に位置する。南条氏配下の小森和泉守方高の居城と云われる。
- ⑪長江所在城 平野部に位置し、扇状に複数の曲輪が広がる。土塁、堀切も存在する。
- ⑫田後(尻)城 南条備前守信元、南条兵庫守元周の居城。現在は宅地。
- ⑬河口城 日本海を望む丘陵地に位置する。山名氏の居城。郭、土塁、堀切が存在する。
- ⑭御冠山 羽柴秀吉の砦と云われている。
- ⑮馬ノ山砦 山名氏豊、川元元春の居城標高107mの丘陵に位置する。土塁が存在する。

湯梨浜町の中世城館分布図



天正8~10年の東伯耆における織田・毛利の動き

	織田・羽柴・南条の動き	毛利・吉川の動き
天正8. 5.23	羽柴秀吉、因幡へ攻め入り、鳥取城を攻撃。南条元統は青谷へ討ち入る。	
5.28	この頃、桑原次右衛門・福屋隆兼が東伯耆に滞在。秀吉、両人に南条元統と行動を共にするよう命じる。	
5.28	秀吉、桑原・福屋に対して、岩(荒カ)神山については南条元統と談合して、攻撃するよう命じる。	
6.13	秀吉、鳥取城その他因幡国の7城を攻略して姫路へ帰陣。	
6.27		吉川元春、吉田源四郎に馬野山在番を命じる。
6.29		元春、因幡境目まで南条軍が進撃したので「彼口通路」は確保が難しいと草苅へ伝える。
7.21		元春軍、伯耆国末吉へ陣替え。
8.13	羽衣石表の合戦で南条方敗北。元統らは羽衣石城に籠城する。	元春、羽衣石表の合戦で勝利。羽衣石岸際で南条勢を多数打ち取る。
8.17	秀吉、鹿野城の亀井茲矩に東伯耆の援軍として先勢(先発隊)1万人を派遣すると伝える。	
8.24	秀吉、福屋隆兼(羽衣石表滞在)に先勢がまもなく着陣するのでよく相談するよう命じる。追々人数を派遣すること、秀吉自身も着陣することを伝える。	
9.17	秀吉、木下将監と軍勢を鹿野に派遣する。	
9.17	秀吉、福屋隆兼の羽衣石表で馳走をねぎらう。また福屋に対して先勢の兵糧200人分を遣わすと伝える。	
9.26		鹿野城内から鹿野氏その他数人が毛利方に味方して退出し、羽衣石と鹿野の間の荒神山に在城する。
9.28		由良要害を攻略する。
10.14		元春、八橋に陣替えする。
10.21		元春、羽衣石付城の「山見」として朝枝平兵衛を遣わす。
11.19		朝枝・馬田・赤木ら、羽衣石に夜襲を仕掛けて、人質となっていた山田重直の息女の解放に成功する。
11.28		重直、馬田を案内者として、正受院固屋の下を放火する。
11.28		重直、十万寺山に軍勢を派遣して、南条重臣の鳥羽氏の被官1人を討ち取る。
12. 8	秀吉、南条元統に対して、来春、織田信長出陣以前に自分が出陣する旨伝える。	元春、肥塚与四郎に宇津吹在番を命じる。



	織田・羽柴・南条の動き	毛利・吉川の動き
天正9. 1.16	宮吉城の田公高家が毛利を離反する。	
2.10		吉川勢、宮吉城を攻撃する。
2.22	岩倉表合戦で勝利。栗尾春高ら討ち取る。	
2.26	宮吉城落城する。	
4. 9	南条勢、山田重直を攻撃する。	重直、南条近習中林を討ち取る。
5. 4		重直勢、羽衣石谷決叟寺を攻めて敵北垣の頸を取る。
6.12		重直の家来衆、羽衣石尾頸南において通路の者を討ち取る。また、杉原元盛、明日泊へ着陣することを重直に伝える。
6.12		杉原元盛、明日、かなりの人数を率いて馬野山表に陣替の予定。
6.13		吉川元長、山田重直の羽衣石後谷での待伏の戦功を賞す。
6.22		杉原盛重、吉川元長に対して、荒神山へ兵糧と兵員を支援し、普請を調えるよう要請する。また、松崎城の小鹿・山田重直のもとへ兵糧を支援するよう要請する。
6.29	秀吉の先勢として、蜂須賀正勝、荒木重堅、神子田長治らが因幡へ進攻し、私部城へ。	
7. 4	秀吉、但馬国小代一揆を弾圧して因幡へ進攻すること、8月まで因州表に在陣した後は、南条支援に向かうことを伝える。	
7. 6		吉川元長、山田重直の長和田表での待伏の戦功を賞す。
7.12	秀吉、鳥取城近くに着陣する。	
7.13		重直勢、長和田表で南条治部丞家人山崎を討ち取る。
7.28		元春、安来に着陣する。
7.28	南条勢、橋津において山田重直勢と戦う。	元長、重直のもとに「置兵糧」を行う。
8. 3		重直、水越山下で待ち伏せを行う。
8.13	南条勢、三徳において杉原盛重被官栗根と合戦する。合戦は日中3度に及び。	
8.20	鹿野と伯耆の間の敵城を南条勢が攻撃して多数討ち取り、城へ討ち入って乗っ取る。	
8.27		元春、八橋に着陣する。
9.16	松井康之の軍勢が泊城を攻略し、停泊中の毛利船団65艘を切り捨てる。また大崎城にも攻め入り山下を焼き払う。	
9.22		この頃、元春、茶臼山に在陣中。
9.23		元長、羽衣石近辺に陣付し、付城2ヶ所構築して普請を調える。早急に陣換える予定。また「因州堺仕切之要害」を申付け、秀吉と南条の間を分断する予定であると述べる。
9.24	松井勢が雲伯境目まで進行し、敵船数艘を切り取り、25人討ち取る。	
9.29	秀吉、羽衣石城下での合戦における福屋隆兼の戦功を賞す。	吉川勢、羽衣石城下を攻撃する。
10.16		朝枝平兵衛、高野宮城に検使として派遣される。
10.16		吉川経言、「此表両城」調べて番衆を差し籠め、早急に「□(馬カ)の山」に陣換えすると述べる。
10.25		吉川経家切腹、鳥取城落城
10.27	秀吉、羽衣石城の後巻のため伯耆へ出発する。	元春、今日明日中に羽衣石表に秀吉勢が出勢するだろうから、その時は一戦交える覚悟であると述べる。
11. 5		樽崎元兼が馬山の御陣は堅固であると述べる。
11. 8	秀吉、南条の居城を毛利が取り巻いているので、後巻のために去る27日に出張し、吉川本陣から20町ほど離れた所で押し詰め、南条の城へ取り続き、居城して、兵糧・玉葉を来春まで気遣わないよう差し籠める。また、特段の動きもなく一段落した(かたが付いた)ので、6日に鳥取城に戻り、城々に残し置く人数を手堅く申し付けて姫路に帰る。	
11.23		元春は馬之山に居陣中
11.30		毛利輝元、吉見正頼に対して、元春陣所の馬野山については、山柄もよく、要害を取り構えて、普請等も調えてあると伝える。
12.10		元春、小寺元賢に対して、馬野山の在番として来春早々に出張するよう伝える。
天正10.1.14		元春、塩冶空助に城山の御番を命じる。
2. 8		城山は南条軍の攻撃により落城したので、塩冶空助は高野宮へ入り山田重直と在番を命じられる。
2.24	秀吉、南条元統・福屋隆兼の上山表における戦功を賞す。	
4. 4	秀吉、備中に進攻する。	
6. 2	本能寺の変が起こる。	
9.29	南条勢の中に毛利に与する物が現れ、羽衣石固屋以下を焼き崩したため、南条元統は退散。羽衣石城落城。	

鳥取県公文書館県史編さん室：岡村吉彦作成



羽衣石めぐり



① 景宗寺跡

景宗寺の集落の奥に、昔、正法山景宗寺というお寺が建っていた。景宗寺は羽衣石城2代目城主宮内少輔景宗が応永15年（1408年）3月に建立した南条氏の菩提寺といわれている。慶長5年（1600）、羽衣石城落城と共に焼失してしまった。この時、住職の仙長和尚は、出雲大社に参拝していたが、急いで帰り、長和田に庵を建て南条氏を弔い、後、長和田の正法山長伝寺を建立し、山号は景宗寺の山号をそのまま用いている。景宗寺跡には礎石等の遺構はみつからないが、崩れた五輪塔などがみられる。

② 羽衣石の観音堂

観音堂には十一面観音が祀られている。河村郷三十三観音霊場の一つである。羽衣石の人の手厚い保護と信心により、大切に祀られている。

③ 羽衣石城

平成の初め頃、政府補助で行われた「ふるさと創生事業」で本谷の所から現在の駐車場まで自動車の登れる道と駐車場が整備された。駐車場からは歩いて30分位で天守閣に登れる。東坂から少し登ると基盤の花崗岩と火山岩の境目に出る。やがて人口の城壁と思われる自然の火山岩の崖石「天然の壘壁」に出会う。さらに登って行くと三の丸に出る。ここには築城当時に植えられたと思われるオオモミジの大木が在って、現在もよく茂っている。二の丸の帯曲輪を登り詰めると頂上の本丸に出る。本丸には模擬天守閣が建っている。天守閣は廃城以来無くなっていたが、大坂城天守閣再建に際し、昭和6年11月、南條寅之助氏（南条氏の末裔）が羽衣石の村民と図り鉄骨の天守閣を再建した。天守閣の前には記念碑「羽衣石城天守閣再建記念碑」が建っている。

西南方向に虎口があり、二の丸の帯曲輪に繋がっている。西坂を下って行くと右に樺の純林があり、かなり広く珍しい。

④ 羽衣石

天女が天界から羽衣石山に降臨した際、天女が羽衣を置いた大岩で、天女の「影向石（ようごういし）」（羽衣石）と言われている。この「羽衣石」の傍らの石の上には、天女の足跡も一つ残っている。また、傍には小祠が祀られている。この羽衣石は、「羽衣石山」、麓の集落の「羽衣石村」の起源となった。

⑤ 羽衣池

現地の説明板には「お茶の水の井戸」と記されている。昔、羽衣石城の城兵の貴重な飲料水として使われていたと思われる。羽衣石南条記に「清水、北洞より湧き出、大干魃といえども乾くことなし」と記されているが、「この井戸を



汲み干すと大雨が降る」との言い伝えも残る。早魃の時には他の村の人を交えて井戸替えをする。昭和14年早魃があり、門田の人が池の掃除をしたら三日後恵の大雨が降ったと言う。昭和55年8月の異常早魃の時、羽衣石の人で掃除をしたらすぐには降らなかったと言う。また、往古、天女がこの井戸で水浴している間に羽衣を農夫に奪われてしまったという伝説もある。現在は、羽衣池と称されている。

⑥ 羽衣石神社（荒神社）

羽衣石神社は、景宗寺から中村を過ぎ本谷と十万寺の分かれ道を通ぎ、少し上流の左手羽衣石川右岸にある。石段を登って行くと、本殿が見える。祭神は伊弉諾之命・伊弉波命・須佐能命となっているが明治までは八幡大神と白山権現になっている。本殿内に真ん丸い直径10cm位の石の御神体がある。

⑦ 鮎返りの滝

鮎返りの滝は落差8.1mと低いが、滝壺の下流は高さ8m長さ約20mで周囲は花崗岩の節理に囲まれている。真夏の昼でも薄暗く冷気を誘う。両側の切り立った岩肌の正面に三段滝が見られ、周囲の景色と相まって壮観である。鮎がこれ以上昇れないところから鮎返りの滝と地元ではよんでいる。

⑧ 馬場跡

地名が羽衣石小字馬場となっている。戦国時代に羽衣石城の武士が、馬の調教場所として使用したものと推測される。

⑨ たたら跡

この付近の花崗岩には良質の砂鉄を多く含んでいる花崗岩が多い。たたら製鉄は、砂鉄の含まれた花崗岩の風化物（真砂）を、水に流し（かんな流し）で砂鉄を採集し、この砂鉄を、木炭を燃焼させた炉の中で熔解させ、銑鉄や鋼塊を取り出していた。この製鉄方法は、西洋の近代的製鉄方法で作られた鉄が出回る様になる大正の頃まで、中国山地の各地で行われていた。羽衣石でも羽衣石川の右岸案内板のある向こうの傾斜地の畑からは熔解鉄屑が多く掘り出される。江戸時代後半頃と推察されるが、良質の鉄が生産されていた様である。

⑩ 鼻達地藏

羽衣石城主10代南条元忠公は、領地堺紛争で検者の梅天和尚（中山町退休寺）が南条方に不利にした為、梅天和尚の鼻にカズラを通して曳き回した後、死刑にしてしまった。その報いの為か、元忠公に二人の鼻塞がりの子が生まれ、間もなく死亡してしまった。ある夜、夢の僧からのお告げにより、元忠公はこの地に寺を建て、延命地藏を安置して供養したところ健全な子が誕生したと伝えられる。今も鼻の病気の回復に祀る人が絶えず、綺麗に祀られている。付近には相撲取り、付高渡大夫（つけたりたかわたりだゆう）の碑も建てられている。

⑪ 羽衣石城の間道

羽衣石城の間道には、宮の谷越しと坂の谷越しがあり、宮の谷越しは十万寺から三朝の山田に通じる道で、坂の谷越しは三朝の山田から鼻達地藏の所に通じている道で、共に南条氏支配時代には（今から400～500年位前）三朝郷・竹田郷の年貢米を山田に集め、この間道を通して羽衣石城に運ばれた。又裏道としても重要であった。宮の谷越し道は昭和の中頃まで、十万寺の小学生は、通学距離が近いので委託して、三朝山田の三朝小学校に通っていた事もある（本来は旧花見小学校）。道は自転車も通らない位狭くてアップ、ダウンが激しく、花崗岩の風化した真砂が多く雨でも降れば崩れやすかった。

⑫ 十万寺

「充滿寺」とも書く。昔、十万寺というお寺があった場所で寺の名前が地名となった所である。昔は有名な寺であった様で、現在山口市にある国重要美術品「木造三重小塔」の基壇の裏に「伯耆国十万寺の僧、蜜乗坊慶海が応永13年（1406年）に、僧侶の死の菩提を弔う為に、三重塔を奉納した」という意味の事が書かれている。この事からも600年以上前には、この地に十万寺という寺のあった事が分かる。現在ここには、十万寺跡（屋敷のみ）、薬師堂、秋葉神社、大塚社、日向ヶ池、ぎゃあーるご池（蛙池）等がある。

【羽衣天女伝説】

羽衣石山で天女が水浴びをしていたところ羽衣石山のふもとに住んでいた男が、岩の上に脱ぎ置かれた天女の羽衣を取って帰ってしまった。天女は天に帰ることができず、羽衣石山のふもとに降りてきて、その男の妻になった。そして二人の子どもをもうけるまでになったが、男は羽衣のことを一切妻には話さなかった。ある日、天女は二人の子どもにそのあり場所を聞き出し、羽衣を着るとそのまま天に飛んで帰ってしまった。残された子どもたちは母を慕って泣き悲しんだ。母を慕って泣き悲しんでいた二人の子どもが、倉吉市にある小高い山に登り、太鼓を打ち、笛を吹いて母を慕ったので、その山を「打吹山」と呼ぶようになったそうである。



